
令和3年度 第3回

桐蔭学園 中等教育学校 学力検査問題

国 語

令和3年2月3日 施行

注意事項

1. 試験開始の合図^{あいず}があるまで、この冊子^{きつし}の中を見てはいけません。
2. 机の上には、えんぴつ・シャープペンシル・消しゴム・受験票・座席券・時計以外のものを置いてはいけません。受験生^かどうしの貸し借り^かもできません。また、机の中には何も入れてはいけません。
3. けいたい電話は、必ず電源を切って、かばんの中に入れておいてください。
4. 問題冊子^{きつし}の印刷^{いんさつ}が見えづらかったり、ページが不足したりしている場合、また、えんぴつなどを落としたり、体の調子が悪くなったりした時は、だまって手をあげてください。
5. 問題冊子^{きつし}のあいているところは自由に利用してかまいませんが、どのページも切りはなしてはいけません。
6. 記述問題において、小学校で習わない漢字はひらがなで書いてもかまいません。
7. 問題は19ページまであります。
8. 問題冊子^{きつし}は持ち帰ってください。

一 次の①～⑩の文中の——部のカタカナを漢字に直し、漢字は読みをひらがなで答えなさい。

- ① 自身のケツ、パクを証明する。
- ② 企業努力によつて、自社のギョウセキを上げた。
- ③ 彼の危険な行為について、ゲンジュウに注意する。
- ④ この道は人のオウライが多い。
- ⑤ 太郎は、今年の卒業式のザイコウセイ代表になった。
- ⑥ 母は冬になるとケガワのコートを着る。
- ⑦ 社長は現場のシサツに出かけた。
- ⑧ 彼のギリがたい性格には好感が持てる。
- ⑨ 彼の意見はいつもの的を射ている。
- ⑩ 母が薬局で包帯を買ってきた。

二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

今日、ネット情報をコピーしてレポートを作成する学生や、報道機関の記者が十分な取材をしないままネット情報を利用して記事を書いてしまい、後でその情報が間違っていたことがわかって問題となるケースなどが生じています。

こうした状況を受け、レポートや記事を書く際、ネット情報の利用はあくまで補助的で、図書館に行って直接文献を調べ、現場へ足を運んで取材をすべきだと主張する人もいます。他方、そんなことをしては変化に追いつけないので、ネット検索で得た情報をもとに書くことも認めるべき、さらに踏み込んで、書物や事典を参照して書くことと、ネット検索で得た情報をもとに書くこととの間に本質的な差はないと主張する人もいます。ネット情報と図書館に収蔵されている本の間には、そもそもどんな違いがあるのでしょうか。私の考えでは、①両者には作者性と構造性という二つの面で質的な違いがあります。まず本の場合、誰が書いたのか作者がはっきりしていることが基本です。著作権の②概念そのものが、ある著作物には特定の作者がいることを前提に発展してきたわけで、だからこそ③オーファン（孤児）著作物の処理が問題になるわけです。つまり、本というのは、基本的にはその分野で定評のある書き手、あるいは定評を得ようとする書き手が、社会的評価をかけて出版するものです。ですから、書かれた内容に誤りがあったり、誰か他人の著作の④剽窃があったりした場合、責任の所在は明確です。その本の作者が責任を負うのです。

これに対してネット上の⑤コンテンツでは、⑥Wikipediaに象徴されるように、特定の個人だけが書くというよりも、みんなで集合的に作り上げるといふ発想が強まる傾向にあります。作者性が⑦匿名化され、誰にでも開かれていることが、ネットのコンテンツの強みでもあります。そこでは複数の人がチェックしているから相対的に正しいという前提があつて、この仮説は実際、相当程度正しいのです。つまり、本の場合は、その内容について著者が責任を取るのに対

し、ネットの場合は、みんなが共有して責任を取る点に違いがあるわけです。

二つ目の、構造化における違いですが、これを説明するためには、②「情報」と「知識」の決定的な違いを確認しておく必要があります。一言でいうならば、「情報」とは要素であり、「知識」とはそれらの要素が集まって形作られる体系です。たとえば、私たちが何か知らない出来事できごとについてのニュースを得たとき、それは少なくとも「W」ですが、「X」と言えるかどうかはまだわかりません。その「Y」が、既存きそんの情報や知識と結びついてある状況を解釈かいしやくするための体系的な仕組みとなったとき、そのニュースは初めて「Z」の一部となります。

よく知られた古典的な例として、注7コペルニクスの地動説があります。一五世紀なか半ば以降の印刷革命によって、コペルニクスは身の周りに多数の印刷された天文学上のデータを集めておくことができるようになっていました。つまり、彼は活版印刷かっぱん以前の時代とは比べものにならないほどの情報にアクセスできたのです。しかしそのこと自体は、まだ知識ではありません。コペルニクス自身が彼のいくつかの仮説かっせつに基づいてこれらの情報を選別し、比較ひかくし、数式と結びつけて仮説を検証していくことで、やがて地動説に至る考えにまとめ上げていったとき、単なる要素としての情報は体系としての知識に転化したのです。

このように、知識というのはバラバラな情報やデータの集まりではなく、中世からの注8「知恵の樹ちえのき」のメタファーが示すように、様々な概念さまたまや注9事象の記述きじゆつが相互さうごに結びつき、全体として体系をなす状態を指します。いくら葉や実や枝を大量に集めても、それらは情報の山にすぎず、知識ではありません。情報だけでは、そこから新しい樹木が育ってくることはできないのです。そしてインターネットの検索システムの、さらにはAIの最大のリスクは、この情報と知識の質的な違いを曖昧あいまいにしてしまうことにあると私は考えています。

というのもインターネット検索の場合、社会的に蓄積ちくせきされてきた知識の構造やその中での個々の要素の位置関係など知

らなくても、つまり樹木の幹と枝の関係など何もわからなくても、知りたい情報を瞬時に得ることができるわけです。つまり、ネットのユーザーは、その森のどのあたりがリングゴの樹の群生地で、その中のどんな樹においてリングゴの実がなっていることが多いかを知らなくても、瞬時にちょうどいい具合のリングゴの実が手に入る魔法を手に入れてしまうようなものです。それで、その魔法の使用に慣れてしまうと、いつもリングゴの実ばかりを集めていて、そのリングゴが実っている樹の幹を見定めたり、そこから出ているいくつもの枝の関係を見極めたりすることができなくなってしまうのです。

さらにA Iに至っては、ユーザーは自分がリングゴを探しているのか、オレンジを探しているのかがわからなくても、目的を達成するにはリングゴが適切であることをA Iが教えてくれて、しかもまだ検索もしていない間に、適当なリングゴをいくつも探し出してきてくれるかもしれません。結局、私たちは検索システムやA Iが発達すればするほど、③自力で自分がどんな森を歩いているのかを知る能力を失っていく可能性があります。

本を読んだり書いたりすることが可能にするのは、これらとは対照的な経験です。文学については言明を差し控えますが、少なくとも哲学や社会学、人類学、政治学、歴史学などの本に関する限り、それらの読書で最も重要なのは、そこに書かれている情報を手に入れることではありません。その本の中には様々な事実についての記述が含まれていると思いますが、重要なのはそれらの記述自体ではなく、著者がそれらの記述をどのように結びつけ、いかなる論理に基づいて全体の論述に展開しているのかを読みながら見つけ出していくことなのです。この要素を体系化していく方法に、それぞれの著者の理論的な個性が現れます。

(吉見俊哉『知的創造の条件 AI的思考を超えるヒント』)

- (注1) 概念がいねん||ものごとに対する大まかな理解・イメージ。
- (注2) オーフアンオーファン(孤児こじ)著作物||ここでは「作者がわからない著作物」のこと。
- (注3) 剽窃ひょうせつ||他人の文章・語句・説などを盗ぬすんで使用すること。
- (注4) コンテンツ||提供される情報の中身。
- (注5) Wikipedia||ネット上の百科事典。ウィキペディア。
- (注6) 匿名あてなめい||名前を隠かくして知らせないこと。
- (注7) コペルニクスの地動説||ポーランドの天文学者コペルニクスは、当時主流だった地球の周りを太陽が回っていると
する「天動説」に対して、地球が太陽の周りを回っているとする「地動説」を唱えた。
- (注8) 「知恵ちえの樹き」のメタファー||人間の「知恵」を樹木にたとえたもの。
- (注9) 事象||現実の出来事や現象。

問1 ——部①「両者には作者性と構造化という二つの面で質的な違いちががあります」とありますが、これについて次の(1)
(2)に答えなさい。

(1) 「両者」にあたるものを本文中からぬき出し、解答らん **A**には五文字の語句、**B**には十二文字の語句を答えなさい。
なお、句読点などの記号も字数にふくみず。

(2) (1)で答えた **A**と **B**における「作者性」の説明として適切なものを次の中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えな
さい。

- ア. その分野で定評のある書き手が作るため、内容に関する間違いがそもそも少ない。
- イ. たくさんの作者によって作られ、みんなで内容に関する責任を分かち合う。
- ウ. 誰だれが書いたかがはっきり示されず、内容について誰も責任をとろうとしない。
- エ. 書き手ははっきりしており、書かれた内容に関する責任の所在が明らかである。
- オ. みんなで作り上げるが、元の情報が不正確で問題となることが多い。

問2 — 部②『情報』と『知識』とありますが、次のA～Eが「情報の獲得」の例にあたる場合は「ア」を、「知識

の獲得」の例にあたる場合は「イ」をそれぞれ解答らんに記しなさい。

- A. 東京開催をきっかけに。パリンピックに興味を持ち、どんな種目があるか、図書館の本で探してメモをとった。
- B. 最近はやりのアニメをいくつか選び、その特徴についてネットや本で調べ、それらの共通点を見つけた。
- C. 働くことに関する学校の宿題で、医師をしている祖父にインタビューし、仕事のやりがいや苦勞を聞いた。
- D. 京都の交通、建物、食べ物について職員で分担して調べ、京都がどんな町かを班として発表した。
- E. 漢字ドリルの練習が終わった後に、出てきた漢字を同じ部首ごとにまとめ、自分なりの漢字一覧表を作成した。

問3

W

Z

に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | |
|---------|------|------|------|
| ア. W 情報 | X 知識 | Y 情報 | Z 知識 |
| イ. W 情報 | X 知識 | Y 知識 | Z 情報 |
| ウ. W 知識 | X 情報 | Y 知識 | Z 情報 |
| エ. W 知識 | X 情報 | Y 情報 | Z 知識 |

問4 — 部③「自力で自分がどんな森を歩いているのかを知る能力」というたとえの表現がありますが、これは実際には何を知る能力のことですか。その説明にあたる部分を本文中から三十字以上、三十五字以内でぬき出し、その最初と最後の四文字を答えなさい。なお、句読点などの記号も字数にふくみます。

問5 本文に関する説明として適切なものを次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア. ネットの長所の後に読書の長所をくわしく説明することで、読書の方がすぐれていると読者に強く印象つけている。
- イ. 読書が役に立つことについて、ネットを利用して情報を手に入れる場合と比較しながら論じている。
- ウ. 情報を手に入れる方法という身近な話から始めて、現代の問題点について、複数の具体例を用いて論じている。
- エ. 具体例と筆者の主張を交互に並べることで、言いたいことが効果的に読者に伝わるようにしている。
- オ. 文章の印象をかわらげ、読者に内容を分かりやすく伝えるために、たとえを効果的に用いている。

問6 次の対話文は、この文章を読んだ後、その内容をふまえて生徒たちが話し合っているところです。この対話文について後の(1)(2)に答えなさい。

Aさん「文章に書いてあったように、本を読むと、書いた人がどのように情報を知識として理解したのかが分かる気がします。ネットは確かに便利ですが、こういう経験はできないと思います。」

Bさん「読書の利点はよくわかったのですが、知りたい情報をすぐに見つけられるネットは、やはり便利だと思います。ぼくも実際、普段はネットばかり見ているので、よく親に注意されます。」

Cさん「ネットと本の違いについて書いてありましたが、私は何かについて調べるとき、本を活用したいと思っています。書いた人がはっきりしている情報の方が、安心感があるからです。」

Dさん「筆者が書いているようにネット情報は間違いが多いし、だれが発信しているのか、はっきりしないので不安です。Cさんと同じで、ぼくもなるべく本を使おうと思います。」

Eさん「私はネットと本をうまく使い分けたいです。ところで、あさんの『い』という発言は、本文の内容とずれていると思います。」

(1) あに入る人物をA～Dの記号で答えなさい。

(2) いを十五字以内の文で補いなさい。なお、句読点などの記号も字数にふくみます。

三 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

その週から初心者コンビの土曜の朝練が始まった。コウキにアドバイスをたくさんもらい、できなかったことが少しずつできるようになっていった。その変化に気づいてくれたのはやはりクドウ先輩とオオハタ先輩だけだったが、ふたりとも褒めてくれたので僕は満足だった。柔道部はいいひとばかりじゃない、だけど、いいひともある。世の中と同じだ。

このころには僕とコウキはお互い名前と呼ぶようになっていたし、ある程度の冗談なら、多少きつくても通じるようになっていた。勉強面で助けてもらうこともあった。コウキは僕より頭がいい。クラスはちがっても、数学と英語は教科担任が同じだったから、わからないところがあれば相談した。どちらの科目も苦手だったのでちやうどよかった。

夜、宿題に手こずったりしてどうしようもなくなると、タキノで電話をかけた。メールだと煩わしかった。電話口でコウキはしばしば「いま何時だと思ってんだよ」とため息をついたけど、「じゃあ、おれが赤点とって部活出られなくなってもいいのかよ」というと、しぶしぶ教えてくれた。実際、コウキがいなければ、①も当てられない成績をとっていただろう。

一緒に勉強をする口実でコウキを家に呼んだり逆に呼ばれたりすることもあった。もちろん早めに切り上げて雑談に興じた。

僕が回転運動や受身をうまくできるようになってからも、朝練はなんとなくづづいていた。経験者に少しでも追いつくためには、これでも足りないとかわかっていたからだ。

ある日の朝練では前日習ったばかりの大外刈りを反復した。「つま先伸ばさせていってたぜ」「もっと胸をぶつけるんだって」「注4釣手はたぶん「こういう感じ」などといいあい、お互いの技のかたちを手探りで磨いていく。

「前さ、入部した理由、柔道かっこいいとか、あれ、本気？」

朝練を終え、ほかの一年生が来るのを待ちながら訊いた。訊かずにはいられなかった、というのが正しい。僕たちは先週やっと届いた道着を着ていた。まだしっくりこなくて、先輩たちのように強そうには見えない。

「本気って、どういうこと」

「いや、絶対それだけじゃないだろうなと思って」

コウキはちよつと考えてから、「ああ、まあね」といった。話したそうな。話したくなさそうな、あいまいな表情だった。

「なんなの？」^② たまりかねて僕はいった。

「いや、あとでいうわ」

「なにそれ」

「練習終わったらちゃんというから」

その日は大内刈りを習った。その前は大外刈りだった。名前は似ていても、全然ちがう技だ。右利きなら、大内刈りは相手の左足を内側から刈るが、大外刈りは相手の右足を外側から刈る。大内刈りはコウキのほうがかまけて、大外刈りは僅差で僕のほうがかまかった。

帰り道、コウキは約束を守った。正午過ぎに鍵を返し、腹を空かさせたまま家路についた僕たちは歩道橋を渡る。

「おれさあ、取り柄がほしいんだよね」

歩道橋の上で立ち止まり、柵の手すりに両肘を載せてコウキはいった。腹減ってるのに止まんよ、と思ったけれど、コウキの横顔が真剣なのでいわないでおいた。その代わり、隣に並んで同じ姿勢をとる。自家用車やバスが眼下を抜けていく。

「取り柄って？」僕は尋ねる。

「取り柄は、取り柄だよ。柔道部に入った理由」

コウキはじつと、斜め下の道路から視線を動かさないうでいった。ぬるい風が顔に吹きつける。僕は黙ってつづきを待った。

とてもいいにくそうに、コウキは何度も口を開きかけては噤んだ。のどの浅いところ、けれど手を突っ込んで取り出すわけにもいかなないところに、言葉のかたまりがずつつつかえているらしかった。そういうものをうまく、するりと引き出してあげる方法を、僕は知らない。

ようやくコウキから出てきた言葉は、「軽蔑するなよ」だった。くしゃくしゃの、弱気な顔になっていた。

「しねえよ」

ほんとか、と念を押してくるかと思ったら、コウキは長いため息をつくだけだった。そしていった。

「おれ、小学校でいじめられてたんだわ。軽くだけど」

ずきりとした。

軽くだけど、というのがいかにもつけたしたようだ。

③ なんととも思っていないふうを装って、「へえ、それで？」と相槌を打つ。短い沈黙がある。④ 話をする場所にここを選んだわけがわかるような気がした。黙っていても、つねに自動車のエンジン音がして、静かにならない。

「親が離婚して、兄貴とも離れて、一回転校してき。そこでうまいぐあいに溶け込めなくてき。もう一回転校するまでずっと、友達いなかった。次の転校先でも、べつにいじめられはしなかったけど、仲いい友達がいたってわけじゃない」
そうなんだ、という僕の相槌は、(注5)爆ぜるような音で走る大きなバイクにかき消される。

「正直にいうと、いまもクラスになじめてはいない。まあ、部活があつて……ダイスケもいるからぎりぎりセーフだけど」
僕は視線を前だけに据え、ふうん、といった。「それで、どうして取り柄云々の話になるの」

コウキは短く息をひとつ吐く。

おれには、なんにもない。

「運動神経がすごいとか、頭が学年でトップクラスにいいとか、すごかつこいとか、お笑い芸人みたいにおもしろいとか……わかりやすい取り柄をみんなにかしらもっているのに、おれにはなんにもない」

取り柄がひとつでもあつたら、とコウキはつづける。

「ひとつでもあつたらいじめられなかった。絶対に。友達もたくさんできてた。絶対に」

「だから……柔道？」

コウキはうなづく。

「強くなれたら、誰も怖くなくなるし」

そっか、と僕はいった。

どこから現れた鳩が歩いて道路を渡っている。いまは信号が赤だから安全だけど、青に変わったら轢かれてしまうかもしれない。そうなる前に渡りきれたらいいのだが。

クラスの友人たちのことを考えてみた。彼らには、確かに取り柄がある。おもしろかったり、足が速かったり、電車にとても詳しくあったりする。しゃべっていて飽きない。だけど、取り柄があるから友達になったかという、そんなことはない。

だったら、と⑤コウキは語気を強める。

「だったらおまえは、一緒にいて楽しくなくても友達っていえるか？」

信号は鳩が道路を渡りきるより先に変わってしまった。車の迫る音に驚いて、慌てて飛んで歩道に上がる。黙っている僕に、コウキは「ほらな」という。

「取り柄のないやつは、誰にとっても楽しくないし、おもしろくないだよ」

笑っているような、怒っているような、失望しているような、複雑な横顔だった。

⑥ 腹立たしかった。コウキの考えかたは独りよがりだし、「誰にとっても」というのは、誰のことも考えていないのと同じだ。なにより、真横にいる僕にいちばん失礼じゃないか。この時間は僕にとって、なんだっていうのだ。わかっている話をしているのなら、僕はコウキを殴ってやってもよかった。

でも、僕が思っているようなことをそのままいったら、コウキはきつとこういうだろう。

じゃあ、おれがはじめられた理由が、ほかにあるっていうのかよ。

⑦ そんなのは悲しすぎた。だから僕はコウキの肩をいちど強く叩いて歩きだした。いてえな、なにすんだよ、とコウキが怒ってついてくる。

僕はコウキにいたかった。

取り柄——「できること」で好かれたって、苦しいだけだ。

「そういうことなら、絶対辞めるなよ」僕はいった。

はあ？ とコウキはすつとんきような声を上げ、「おまえのほうが辞めそうだけだな」という。

「辞めねえよ」

歩道橋の階段を下る。嘘みたいだけれど、さっきの鳩が、階段を上ってきていた。ちよん、ちよん、と一段ずつ跳んで

いる。思わず笑いがこぼれた。コウキも気づいて笑う。鳩を驚かさないように、縦一列になって階段の端を進んだ。鳩は頭を前後に振りながら僕たちとすれちがう。⑧コウキが辞めないうちは、僕も辞めない。そう決めた。

(北川樹『ホームドアから離れてください』)

(注1)タキノ||「多機能携帯電話」のこと。通話以外の機能を備えた携帯電話のことをこのように呼んでいる。

(注2)赤点||不合格点。

(注3)受身||柔道などの格闘技において、投げ技などによって地面に激突する際のダメージを軽減するための技術。

(注4)釣手||柔道において、相手と組み合う際の持ち手のこと。

(注5)爆ぜるような音||何かが発したような大きな音のこと。

問1 ①に当てはまる、体の部位を表す最も適切な漢字一字を答えなさい。

問2 — 部②「たまりかねて」の意味として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 我慢がまんできずに
- イ. こわくなつて
- ウ. びつくりして
- エ. 面倒めんどうに感じて

問3 — 部③「なんとも思っていないふうを装よそおつて」とありますが、それはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 自分のなにげない問いかけがコウキの知られたくない過去あはを暴くことになって申し訳ないと感じたが、今さらそんなことを言ってもコウキは聞き入れないと思ったから。
- イ. 「軽くだけど」という言葉から、コウキがいじめられた過去を今でも気にしていると感じ取り、同情したりすることで引け目やみじめさを感じさせたくないと思ったから。
- ウ. 親しくなつてからずいぶん経たつのに、いじめられていたことをコウキがこれまで打ち明けてくれなかったことが悲しかったが、今それを顔に出すべきではないと思ったから。
- エ. コウキにいじめられた経験があることは予想外だったが、自分の感情を表に出すことでコウキの機嫌きげんを損そとね、話の続きを聞けなくなつてしまうことは避さけたかつたから。

問4 ——部④「話をする場所にここを選んだわけがわかるような気がした」とありますが、コウキがこの場所を選んだのは、どのような気持ちからだだとダイスケは考えていますか。解答らんに合う形で、四十字以内でわかりやすく説明しなさい。なお、句読点などの記号も字数にふくみます。

問5 ——部⑤「コウキは語気を強める」とありますが、ここから読み取れるコウキの気持ちの説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 聞きたいというから、意を決してつらい過去についても打ち明けたのに、どこか会話に集中していないダイスケの様子が不満で、ちゃんと聞いているのか確かめたいと思っている。

イ. 「強くなるために柔道じゆうどうをしている」という自分の入部理由を聞いても大した反応はんのうを示さないダイスケを見て、本気で柔道じゆうどうを続けるつもりがあるのか、問いただしたいと思っている。

ウ. これまでダイスケとは友達ともだちとして一緒に楽しく過ごしてきたつもりだったが、勇気をふりしぼって話したことをダイスケが無視むしし続けるので、裏切られたように感じている。

エ. 「何か取り柄とえがあれば友達ともだちができて、いじめられることもない」という自分の主張しやうに対して、そっけない返事へんじしかないダイスケがもどかしく、いらだたしさを感じている。

問6 — 部⑥「腹立たしかった」とありますが、ダイスケがこのように感じたのはなぜですか。その理由の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 取り柄のあるなしに関係なくコウキは一緒にいて楽しい友達なのに、取り柄のない自分は誰にとっても楽しくないというコウキの言葉は自分を無視した失礼な発言だと感じたから。

イ. せつかく一緒に柔道の練習を頑張ってきたのに、コウキは何か取り柄がほしいだけで、柔道そのものに魅力を感じているのではないと分かり、裏切られたように感じたから。

ウ. 現在いじめられている訳でもないのに、いつまでも昔の経験を引きずって落ちこみ、説得しても自分の考えを変えようとしなないコウキの様子に、時間をむだにされたと感じたから。

エ. いじめられた本当の理由を深く考えようとせず、自分が強くなればいじめられないと勘ちがいをしているコウキの考えが、どうにも単純で自分勝手なものに感じられたから。

問7 — 部⑦「そんなの」とは具体的にはどういうことですか。その説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. いじめられた本当の理由をコウキに伝えること。

イ. コウキに取り柄がないことを面と向かって認めること。

ウ. いじめられる理由が他にあるとコウキが考えてしまうこと。

エ. コウキと殴りあいのけんかを始めてしまうこと。

問8 ——部⑧「コウキが辞めないうちは、僕も辞めない。」とありますが、ここから読み取れるダイスケの気持ちの説

明として最も適切なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア. 取り柄があるかどうかとは関係なく、コウキが自分にとって友達であることを、コウキと一緒に柔道を続けていくことで証明してやろうと思っている。

イ. 自分と同じ初心者で柔道の技術においても大して差がないコウキに、「おまえの方が辞めそうだ」と言われてむきになり、絶対にコウキより長く柔道を続け、うまくなってやろうと思っている。

ウ. 「強くなるために柔道を始めた」「強くなって自分の取り柄にしたい」というコウキの言葉が半信半疑で、本当にコウキが柔道をやり続けられるのか見届けてやろうと思っている。

エ. 柔道部はいい人ばかりではないし、コウキが再びいじめられることになったら大変だと思い、せめて自分だけはコウキのそばにいて、何かあった時には友達として助けてあげたいと思っている。

